第４回 山のトイレを考えるフォーラム 記録抜粋

２００３年２月１日（土）　於・札幌市生涯学習センター（ちえりあ）

【質疑応答】

質問１――鈴木と申します。北海道の荒井さんにお尋ねしたいのですが、木製トイレブースを作られた時に、担ぎ上げを道の職員の方でおやりになったとうかがったのですが、道の職員の方だけで、どこかのボランティア的な方の参加はあったのでしょうか？

荒井――トムラウシの南沼はすべて道職員ですね。裏旭岳の方は業者に一部委託いたしました。

質問１――仕事としては道の職員にやっていただけるのはひじょうにありがたいのですが、道の職員の方だけではなく、全道的な山岳会もありますし、地元の山岳会に呼び掛けしてボランティアで協力してもらう方法は今後お考えでしょうか？　私たちは協力したい立場でお話しているのですが。

荒井――その節はぜひお願いしたいと思います。手弁当で申し訳ないのですが。

横須賀――今のことに関して、「ワイズユース・マネージメント」という言葉を、北大の地球環境の研究をされている渡辺助教授が提唱されています。登山道においても山のトイレも、やはり地元の団体を作って、その名前は「登山道協議会」というのですが、地元で協力し合ってどういうふうにやるかを決めて、ある意味節約した形でやる、そういう団体が功を奏するだろうとも言われています。実際に九州地域ではそれで成功している地域もあります。

質問２――山岳レクリエーション管理研究会の山口です。広田さんと同じ研究をしております。新得山岳会の小西さんにお尋ねします。新得山岳会の趣旨で、大沼、南沼にトイレを設置すべきであるという点ですが、私も基本的に賛成ですが、小西さんとは違うのかどうかちょっと確認したいと思います。

広田さんがおっしゃったような緊急避難的なことで、とりあえず大沼、南沼の問題を解決するためにトイレを設置するのであればいいと個人的に思います。でも将来的には、やはり南沼はトイレはない方がいいな、という前提で。緊急避難的なんですが、新得山岳会としては、もう恒久的にそういう使い方をするというかたちで言っておられるのでしょうか？

小西――あそこを「準整備区域」とか、そういう場所にしたいとは毛頭思ってはいないんです。「現状追認」型と言われるとそれまでなんですが、日帰りの山ならトイレはいらないと思います。でも南沼は要所として、必ず皆さんそこでテントを張られるんです。現実的に、トムラウシ側から登ると白雲まで１泊２日もする中でトイレを置いておきたい、と。縦走する人イコールベテランという見方はもう駄目かもしれませんが、日帰りではなく縦走する人たちが自分のしたものを置いてくる、という現状からして、今の環境を打開するために、トイレがないともっともっと悪化していくと思います。緊急避難的、暫定的に置いて解決できて、縦走者のモラルが向上してトイレもいらなくなったら、もちろんなくていいと思いますけれど。

司会――資料集の６７ページに意見を入れておりますが、私ども「山のトイレを考える会」の東京支部長・小枝正人です。今は東京在住ですが、北海道でひじょうに熱心にトイレの活動をされています。小枝さん、何かご意見はないでしょうか。

小枝正人――まず利尻の須間さんに。本州から見ますと利尻さんは協力してやっておられると注目しております。もうちょっと利尻の方から本州に、そういうことをやっているんだともっとアピールをしてもらえたらと思うんです。「山と渓谷」などの山岳雑誌や、マスコミも今注目をしているんです。利尻は今は無料ですが、たとえば登山者が有料で携帯トイレを購入して、使った人は利尻町・利尻富士町の行政がきちんと回収するシステムまでをきちんと作って、クローズド・システムで問題を解決しようと努力しておられる。それを全国にアピールしていただきたい。今日のお話では数年間が携帯トイレで、その後バイオトイレも考えるとおっしゃいましたが、利尻の皆さんのここ数年間の取り組みを、ぜひ全国に強くアピールしていただきたい、これは希望でございます。

道庁の荒井さんには、この数年北海道も努力され、１４年度もいろいろなことをやっていただき前進していると思います。ただ、途中で「合意形成」ということを言っておられましたが、皆さんがたもわれわれも、合意形成はひじょうに重要と思っておるんですが、どう合意形成していくのか具体的に提示していただきたいと思います。たとえば１２月に大雪連山の共生プロジェクトの庁内組織ができたと新聞にも出ましたし、私もちょっと辛辣なコメントを磯田さんに対しては書いているんですが、それに対して、一般に合意形成するためにそこから外に向かってみんなの意見を吸い上げる仕組みを早く作っていただきたいなと思っております。あと２点。登山者調査の重要性を「山のトイレを考える会」も言っていて、それを昔から主張されている方がいらして、７６ページにも上げた佐藤文彦さん、層雲峡観光協会の専務理事です。一般論で言われる「登山者の急増」は、実際は全体から見るとそうでもないわけです。ただ、南沼のトムラウシ温泉からの登山者はひじょうに多く、個別な事情をよく調査して対応しなくてはいけないと思うわけです。今年度カウンター調査もお考えと聞きましたし、環境省の協力もというお話もありましたが、実際

登山口調査だけではこの問題の解決策にもう一歩足りないと思います。それぞれの野営指定地の動向調査、ワンシーズンの人間以外に、土日など休みの負荷変動の調査、避難小屋に泊まる人数の変動、登山口以外でも南沼や大沼の、山の上の登山者の動向をなんとかつかまえることを提案していただければと思います。先ほどの質問で「協力するよ」という方もおられたように、誰かまとめる人があれば協力する、と手を挙げる人はたくさんいると思います。それと、道が２ヶ所で試験調査をされている沼ノ原とトムラウシのバイオトイレですが、温度のデータをきちんととって公表することが必要だと思います。渡辺さんがおっしゃったように、５０度以上温度がないときちんと分解していないのではないかと思いまして。温度データと利用者カウンターと外気温をきちんととって公表していただければと思います。

広田先生にはちょっときつい言い方をしますが、「ＲＯＳ」のお話を聞いていますと、「原生区域」でのトイレのとらえ方が、「利便性」ということだけでしかしておられないのは残念だなと思ったんです。トイレをつけると利便性が増す、だから「原生区域」ではない――そういうとらえ方とは違う考え方もできないものでしょうか。新得町の小西さんもおっしゃったように、そこを「原生区域」ではなくしたいとは思っていないけれども、環境を保全するためにトイレが必要という視点はないものでしょうか。ヒサゴ沼にしても忠別にしても、「原生区域」エリアですが山小屋とトイレはあるんですね。そこを見ないで南沼のトイレだけをもってくるのは、都合のいい区分の仕方かな、と。もう１つ、ゾーニングの仕方を、利害関係者も含めていかに多くの人の意見を聞くか、聞いてそれを区分するか、そういう場を作ることが一番「ＲＯＳ」導入の効果があるので、それをどうするかを皆に提示していただきたいな、という希望でした。以上です。

須間――１点目のもっとＰＲしたらどうかというお話はその通りだと思います。ホームページに、携帯トイレの啓蒙も更新して載せてはいるんですが、雑誌やマスコミでもし紹介してくだされば もっともっと私たちの取り組みも広くアピールできると思いますし、「こういう方法もどうか」というご意見もいただけますので、もしもご紹介がありましたら連絡していただけたらと思います。

次の回収システムの件ですが、ごみに関しては利尻町と利尻富士町と広域で組合を作って１ヶ所にあるんですが、そこで燃えるごみとして処理しています。外袋は有力ガスの出ない特殊なビニールを使っていて、中の携帯トイレもガスの出ないものを使っていて、そういう特殊な携帯トイレなのですべて燃えるごみとして処理しております。よく本州から「分別しなければならないけれど、どうやって処理しているんですか」という問い合わせが結構来ます。こちらの方は、そういうことで燃えるごみとして処理していますので、と答えております。

次に有料化の件ですが、実際有料化してはたして買ってくれるかどうかが一番の大きな点だと思います。それによってまた逆戻りというか、お金を出すなら適当にあちこちで用

を足そうか、という感覚ももしかすると生まれるんじゃないかと思いますので。これについては実験的に、もう少し無料でやってみて、アンケートも前回は１００人程度しかとれなかったので、より多くとって、それによって本当に有料化でできるのか、回収についてももっとアピールして、未使用の分を回収したいと思っています。

荒井――３点ほどご指摘いただきまして、まず意見聴というか合意形成の仕組み作りということで、いろいろ考えてはおりますが、なかなか結論が出ません。先ほどもお話にありましたが、１２月に「大雪連山共生プロジェクト会議」を立ち上げ、副知事を座長に据えております。副知事は道の方針を決めてそれを全国に発信していく、それが極端な方針でもいいんだ、とかなり過激なことも言われていて、事務局は、たとえば「大雪山にはトイレを作りません、すべて携帯トイレです」という方針でもいいという考え方はあるんですが、なかなかそこまで踏み込めないのが現状です。合意形成ということで、「考える会」などこういうフォーラムでいろいろなご意見もいただいているんですが、意識が高い方からはご意見いただけるんですが、それが全道民のご意見か、と。山に登らない方のご意見も当然徴集しなければならないと考えております。ですが即答はなかなか難しいので、ちょっと検討させてください、申し訳ありません。

登山者数の調査ですが、登山口の調査よりは登山の動向調査というお話のあった通り、おそらく登山口でのカウンターと、実際に登られて分岐点でどちらに行くのかという調査もしなくてはならないと思います。現段階ではまだ予算上もついていない話なので、もしその場合には、各山岳会の皆さまやボランティアの方々、研究者の方々のご協力をお願いしたいと思っております。

３点目のバイオトイレの気温の関係ですが、今年は１週間から１０日に１回、委託の業者に現地に行って処理層内の温度を測ってきてもらっています。沼ノ原の登山口では５度８分から４７・１度の温度変化がございました。処理層内だけでの温度でしたから外気温度との関連性がなかったので、今年度はその辺もふまえてやりたいと思います。トムラウシの方は１７・２度から５１・１度、先ほどの通り実際に業者が行って、時間帯もかなりのぶれがありますので、毎定時に行くなど温度計測についてはもっと検討したいと思っております。

広田――ご指摘ありがとうございました。確かに「原生区域」だからトイレなしというのは乱暴すぎますね。「原生区域」においてトイレ行為がどうあるべきかは、もっと丁寧な議論が必要だと思います。具体的に「原生区域」と言っても、トムラウシの南のものと高根ヶ原のものと永山あたりでは立地条件が違うわけですから。南沼についてはいろいろな縦走路の結節点であることは確かです。そういう条件も配慮しながらトイレ問題も考えなければならないわけで、「原生区域としたからトイレなし」と考えているわけではない、とちょっと言い訳をさせてください。ただ、忠別・ヒサゴ沼にあるから南沼、というのは、そ

れはちょっと議論が違うかな、と私は思います。忠別とヒサゴ沼はすでに施設があるんですね。そういう利用のされ方をしているところでどう考えるかと、それがない南沼でどう考えるかというのはやはりちょっと議論の前提が違うかなとは思っています。

２つ目、「ＲＯＳ」を使った合意形成の仕方ですが、今後の課題であります。実際、どういう形で同意形成のプロセスを進めていけばいいのかが一緒にないと、所詮「ああ、そうですか」で終わってしまうので、これを実際の合意形成の中ででどのように使っていくのかは今後の課題と考えております。

それに関して１つ思ったのは、これは渡辺さんからも補足してほしいのですが、やはり関係するいろいろな組織・団体・個人のパートナーシップがすごく重要で、そのパートナーシップは枠組みを作ったからできるのではなくて、共同の作業をしながら作られていくものだと思います。たとえば行政とＮＰＯがパートナーシップを作るには、最初に枠組みを作ってからさあ一緒にやりましょうではなくて、何か小さなテーマで一緒にやってみて、お互いの考え方がわかった上で大きな活動に取り組んでいくのが順序だと思います。ですから、この「ＲＯＳ」で想定したような大雪山の利用をどう考えるか、なんていう大きなテーマをいきなり利害関係者でやれば、まとまりがつかない可能性があるわけです。やはりまず関係する人々が小さなパートナーシップを作る中で、徐々に大きなテーマを考えていくやり方がいいのではないでしょうか。先ほど登山客データの収集のお話がありましたが、私はああいうテーマから始めるといいと思うんです。道が音頭取りになって関係団体・山岳会等に呼び掛けて、１年間できるだけ詳しい登山者の流れを知りたいと、そういうパートナーシップ・プロジェクトをやるといいですね。その中でお互いのやり口や能力、限界も見えてきますし、それからトイレに関するパートナーシップ事業をやって、といううちにパートナーシップができてくるのではないでしょうか。これについてはプロは渡辺さんがいますから、何かコメントを……。

渡辺――いきなりふられました（笑）。でも確かにそうですね。地域の身近な現場で起きている、まさにみんなが共有できる問題を考えようと。その「みんな」は誰かということですが、いい意味でも悪い意味でも利害者です。自然というのは、そこに来る人も利害者で、山小屋の人も利害者ですし、それを管理する行政も利害者です。そこに集う全体の人が出てきて、最初はそれぞれの都合や立場を言いますが、立場を超えた部分が知恵なので、それをどう作れるか。知恵だけではなくて、今度はそれを具体的なルールやシステムにどうできるか。で、システムを維持するためには金がかかるので、誰が出すか、誰が責任をとるのかとなっていくわけですね。全体としてさまざまな側面で全体を１つにまとめたものが、先ほど広田先生がおっしゃったような管理基本計画になっていくんでしょうし。その中でトイレはどうするのか、ちゃんとしたトイレを作るのか携帯トイレなのかトイレを作らないのか、それは全体の合意として決めていかなくてはならない、となっていくのでしょうね。そういう思考、議論の仕方――行政の方から言うと情報公開や情報提供ですが

――、お互いの「パートナーシップ探し」のような議論・思考の仕方がこれからの日本に必要になると思います。

ご存じのように国立公園の自然公園法が改正になりましたよね。それでＮＰＯも管理者になれるようになったんです。私どもが目指しているのは、２３人しかいない富士箱根伊豆国立公園の国家公務員の皆さんではなくて、極論を言いますと地元に１００団体あるわけですし、富士山のまわりに１００万人住んでいるので、山梨県と静岡県を合体させて「富士山県」を作って、そこに住む人々が中心になって、国にお金を出してもらってそこで新しい仕組みを作るということです。富士山は実際、年間３，０００万人来る世界最大の観光地ですから、その人たちを上手に使っていけば巨大なＮＰＯとしての管理主体が生まれてくるんじゃないかと思います。

それともう１つ、富士山周辺に来る旅行者に１００円出してもらっただけで、３，０００万人×１００円で３０億円になるんです。調べたら、「日本旅行業組合」が定款を作っているんです。その定款に「富士山に来る人は１人あたり１００円払う」と書いてしまえばいいんですよ。どうやって書いてもらえるのか聞いたら、総会で決めればいいというので、「そうかい」と帰ってきました（笑）。簡単なので今そこをせめているんです。皆さんも一緒にやりませんか？　ちょっとした知恵を使うとものすごいお金がごっそり入ってくるわけです。そうすれば別に行政はいらない、皆さんでやるんです。そのかわり、これを仕事にできるわけです。

横須賀――本日、さまざまな方に来ていただけて、「ＲＯＳ」について発表していただいて、利用計画はこんなものがあるよ、私たちの山岳地はどういうふうに考えるべきだろうというところのトイレ問題ということで出しましたが、この「ＲＯＳ」は北海道版のものがまだ完結しておりません。考えはじめたらればかりです。私たち「山のトイレを考える会」はこれから「ＲＯＳ」がどう動くかわかりませんが、そういうものを参考にしながら自分たち利用者から見た姿は何を望むのかを整理するべき時が来ていると思います。

もう１つ、今日はバイオトイレについてずいぶん発表がございました。バイオトイレの利用者の人数が北海道と本州とではものすごく違う、そこから考えても、北海道ではバイオトイレで全部行くのかというと、私はそうではないと思います。「考える会」でも何回も話し合いましたが、貯留方式で浸透式がどこまで使えるのか、どのくらいインパクトがあるのか、本州の利用者の多さがそのまま北海道でバイオトイレ（を使うこと）になるか、そこも考えていきたいと思います。バイオトイレを使えるのは登山口、水や電気の来ているところと言えますけれど、山の上でソーラーを使うとなると、ちょっと待てよとも考えます。要望書の中にはいろいろな処理スタイルがあるので、そのインパクトを調べてくださいという項目もございます。

最後に、事務局をやってくださっている北大の愛甲先生ですが、昨年１０月末から１年間海外留学でアメリカに行っておられます。私たち力を合わせて、愛甲さんのいないところでフォーラムを開きました。今、無事に終えられてほっとしております。

アンケート結果

No	年齢	性別	職業	今回のフォーラムをどのように知ったか	フォーラムの感想	活動への希望
1	46	男性	会社員	アースウィンド	今まで知らなかったのでとても勉強になった。 携帯トイレを試してみよう。 様々な角度を持つパネリストが出席されていて、全体的な理解を得られた。	・バイオトイレの設置と維持管理の実現に向けた組織化、体系化。行政への働きかけ ・トイレ問題を含めた登山マナー向上のための草の根運動、マスコミの巻き込み運動
2	61	男性	公務員	案内状	最新情報、例えばトイレブース、回収ボックスの設置状況等が得られて良かったと思う。	フォーラムの回数を重ねてきても、軽々に結論を出せない問題だと思います。 今後も従来同様、地道な活動を通じて、登山愛好家のために有意義な情報を提供してください。(フォーラムも続けてください)
3	53	男性	自営	北海道新聞	渡辺豊博氏の話は面白すぎる。 山のトイレ問題ひとつとっても広い視野から"物事"を捉える事の必要性を感じました。非常に強烈な印象を受け、NPOという市民組織の重要性を感じたのです。パネルディスカッションは、パネリストの発表、主張が中心となり、こうした場合、ディスカッションはそもそもむづかしいのでは。山のトイレに絞ってもらう事で、ディスカッションを展開して欲しかった。焦点がぼやけた感じで残念	今回まで、よく分からなかった考える会。ですが、今後もっと一般の人々への普及活動を期待しています。
4	ー		ー	秘密	渡辺さんの話が素晴らしかった。	スコップをもって下さい。
5	60	男性	無職	アウトドア行事のパンフにて	山のトイレ問題の難しさを改めて認識した。 各団体の取り組み状況を理解する事が出来た。	いろいろ難しい面もあるが、現状のままでは、山全体がし尿汚染される事態になりかねない。 やはり、何らかの取り組みが必要だ。 バイオトイレの設置(維持管理を前提) 携帯トイレの普及(持ち帰り、廃棄が容易に出来る様改良要) このような働きかけを今後も継続して取り組んで頂き将来に残す。 北海道の自然環境維持に努めて頂きたい。 私見として、入山料の徴収を実施すべきだと考えている。 管理の問題あるが、行政の収入としてではなく維持管理の実費補填として。
6	43	男性	公務員	知人からの紹介	地道な活動にいつも頭が下がる思いです。 少々参加者が少なく残念でしたが、有意義なフォーラムだったと思います。 役員のみなさんご苦労様でした。	今後は携帯トイレの活動と平行してバイオトイレ増設への取り組みが必要だと強く感じました。 この不況下なかなか大変かと思いますが、企業の協力を得てバイオトイレの増設を考えては? 企業のイメージアップにもなると思いますが・・・・。
7	45	男性	会社員	山のトイレML	・モラルの問題:我が家の町内会でのゴミ出し、犬のフン問題と々レベルに感じる。 ・富士山とROS等興味深い話が多かった。	コミュニケーションの活発化 正しい情報の公開
8	25	女性	HTB	インターネット	山のトイレに関する事は、昨年ぐらいから、携帯トイレやバイオトイレについて、多少関心がありました。 大雪を中心とする現状がわかり、非常に勉強になりました。 今後とも、こういう活動に興味を向けていきたいと思います。	携帯トイレの一般認識を深めていけたらよいですね。 今後、放送できるかどうかはわかりませんが、活動の様子を長期にわたって取材できたらと思っています。私ももっと勉強してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。